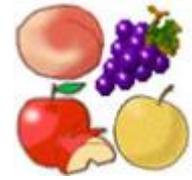


令和7年度 果樹情報 第9号

(令和7年7月22日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (7月前半、果樹研究所)

平均気温は、第1半旬が26.7℃で平年より4.9℃高く、第2半旬が27.6℃で平年より5.2℃高く、第3半旬が22.9℃で平年より0.2℃低く経過しました。

この期間の降水量は19.0mmで平年比19.7%と平年よりかなり少なくなりました。日照時間は89.4時間で平年比115.8%と平年より多くなりました。

2 土壌水分 (7月14日現在、果樹研究所)

7月14日時点の土壌水分 (pF値: 果樹研究所なしほ場: 草生・無かん水) は、深さ20~60cmで2.9となっており、乾燥状態です (図1)。

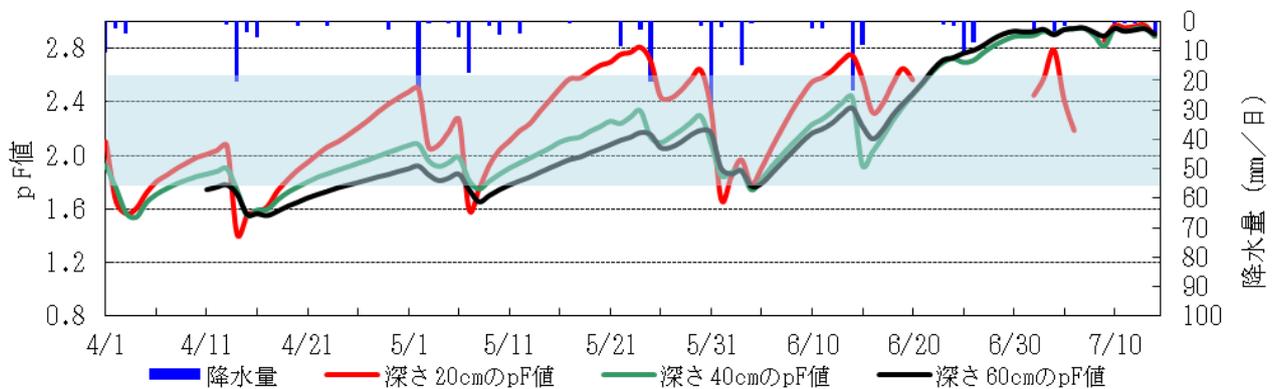


図1 土壌 pF 値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)
図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

3 発育状況 (7月16日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が64.3mm(平年比112%)、側径が72.4mm(平年比121%)、「ゆうぞら」は縦径が57.9mm(平年比108%)、側径が54.7mm(平年比118%)で両品種とも平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、両品種とも平年よりやや大きくなっています。

イ 新梢生長

満開後90日における「あかつき」の新梢長は19.3cm(平年比139%)と平年よりかなり長く、展葉数は18.0枚(平年比114%)と平年より多く、葉色は平年よりやや低くなっています(表1)。「ゆうぞら」は、新梢長は28.1cm(平年比181%)と平年よりかなり長く、展葉数は21.3枚(平年比140%)とかなり多く、葉色は平年よりやや低くなっています。新梢停止率は、「あかつき」が90.0%、「ゆうぞら」が85.0%でした。

ウ 核障害の発生

満開後85日における「あかつき」の核障害発生は、核頂部亀裂が5.0%と平年よりかなり少なく、縫合面割裂が45.0%と平年よりかなり多い状況です(表2)。

エ 収穫状況

「はつひめ」の収穫盛期は7月4日で平年より5日早く、昨年より2日遅くなりました。

果実の大きさは316gで平年よりかなり大きく、糖度は13.0° Brixで平年より高くなりました(表3)。

「日川白鳳」の収穫盛期は7月6日で平年より10日早く、昨年より3日遅くなりました。

果実の大きさは 251 g で平年よりやや大きく、糖度は 13.3° Brix で平年よりかなり高くなりました。

「暁星」の収穫始めは 7 月 15 日で平年より 6 日早く、昨年より 7 日遅くなりました。

オ 収穫期予測

果樹研究所における、発育速度 (DVR) モデルによる「あかつき」の収穫期予測は、気象庁の気象予報を反映した予測では、収穫開始日は 7 月 27 日ごろで平年より 4 日早く、収穫盛期日は 7 月 31 日で平年より 4 日早い見込みです (表 4)。

表 1 ももの新梢伸長 (満開後 90 日)

品種	新梢長 (cm)			展葉数			葉色 (SPAD)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	19.3	13.9	139	18.0	15.8	114	41.8	44.6	94	90.0	90.4	100
ゆうぞら	28.1	15.5	181	21.3	15.2	140	41.6	45.0	92	85.0	89.9	95

注) 平年は、1996～2020 年の平均値

表 2 ももの核障害発生状況 (品種：あかつき)

年	満開後日数	30 日	45 日	50 日	55 日	60 日	65 日	70 日	75 日	85 日	95 日	収穫果
2025	核頂部亀裂	30.0	40.0	30.0	20.0	25.0	10.0	20.0	0.0	5.0	-	-
	縫合面割裂	0	0	0	0	15.0	15.0	40.0	25.0	45.0	-	-
2000 ～2020	核頂部亀裂	35.1	37.1	45.5	51.9	53.3	50.7	49.1	42.9	48.1	49.3	48.8
	縫合面割裂	0	0	1.7	2.4	11.4	22.1	23.0	21.9	32.6	36.8	24.6

注) 平年値は 2001～2020 年までの平均値

表 3 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重 (g)			糖度 (° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/30	7/ 6	6/28	7/ 4	7/ 9	7/ 2	7/ 7	7/13	7/ 4	316	264	303	13.0	11.8	12.7
日川白鳳	7/ 3	7/13	7/ 1	7/ 6	7/16	7/ 3	7/10	7/20	7/ 4	251	236	211	13.3	11.0	12.8
暁星	7/15	7/21	7/ 8	未	7/25	7/10	未	7/29	7/11	未	221	211	未	13.0	14.0
ふくあかり	未	7/21	7/12	未	7/27	7/15	未	7/31	7/16	未	266	306	未	13.0	12.8
あかつき	未	7/31	7/19	未	8/ 4	7/22	未	8/ 9	7/29	未	269	343	未	13.0	13.2

注) 平年値は、1991～2020 年 (「はつひめ」「ふくあかり」は 2009 年～2020 年) の平均

表 4 もも「あかつき」の発育予測日 [予測方法：発育速度 (DVR) モデルによる発育予測]
(果樹研究所：7 月 15 日現在)

発育予測	観測日		今後の気温経過			気象予報
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
収穫開始日	7 月 19 日	7 月 31 日	7 月 27 日	7 月 27 日	7 月 27 日	7 月 27 日
収穫盛期日	7 月 22 日	8 月 4 日	7 月 31 日	7 月 31 日	7 月 31 日	7 月 31 日

注 1) 平年は 1991～2020 年の平均値

注 2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2 週間気温予報及び 1 ヶ月予報気温 (3～4 週目の平均気温) を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値

注 3) 発育予測は誤差を生じる場合があることに留意する

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が 43.0 mm (平年比 101%)、横径が 53.6 mm (平年比 105%) と平年並、「豊水」は縦径が 47.4 mm (平年比 110%)、横径が 54.0 mm (平年比 115%)

%)と平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「幸水」は平年よりやや小さく、「豊水」は平年よりやや大きくなっています。

イ 新梢生長

満開後 80 日における「幸水」の予備枝新梢長は 111.6 cm (平年比 99%) で平年並、不定芽新梢長は 105.3 cm (平年比 107%) とやや長くなっています。予備枝新梢の葉枚数は 31.8 枚 (平年比 104%) で平年並です (表 5)。予備枝新梢伸長停止率は 100%、不定芽新梢伸長停止率は 100% となっています。

満開後 80 日における「豊水」の予備枝新梢長は 110.6 cm (平年比 104%) で平年並、不定芽新梢長は 85.6 cm (平年比 95%) とやや短くなっています。予備枝新梢の葉枚数は 31.9 枚 (平年比 111%) で平年より多い状況となっています。予備枝新梢伸長停止率は 79.1%、不定芽新梢伸長停止率は 93.6% となっています。

ウ 裂果発生状況

「幸水」における裂果は 7 月 15 日現在で確認されていません。

エ 生育予測

7 月 15 日現在の DVR モデルによる「幸水」の生育予測では、収穫盛期は 8 月 23 日ごろで平年より 6 日早い見込みです。

表 5 なしの満開後 80 日における新梢生長

品種	予備枝新梢長 (cm)			不定芽新梢長 (cm)			予備枝葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	111.6	112.7	99	105.3	98.2	107	31.8	30.5	104
豊水	110.6	106.8	104	85.6	90.2	95	31.9	28.9	111

品種	予備枝新梢停止率 (%)			不定芽新梢伸長停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	100	90.4	111	100	90.2	111
豊水	79.1	88.4	89	93.6	87.8	107

注) 平年値: 「幸水」の新梢長は 1990~2020 年、葉枚数は 1998~2020 年、「豊水」の新梢長は 1991~2020 年、葉枚数は 1998~2020 年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 59.8 mm (平年比 101%)、横径が 69.0 mm (平年比 102%)、「ふじ」は縦径が 54.1 mm (平年比 103%)、横径が 57.7 mm (平年比 101%) と両品種とも平年並です。

満開後日数で比較すると、両品種とも平年よりやや小さい状況です。

(4) ぶどう

「巨峰」の着色開始期は、7 月 11 日で平年より 7 日早くなりました (表 6)。

「あづましずく」の着色開始期は、7 月 8 日で平年より 6 日早くなりました。

表 6 ぶどうの着色開始状況

品 種	着 色 開 始 日						
	2025	2024	2023	2022	2021	2020	平年
巨 峰	7/11	7/11	7/10	7/14	7/19	7/21	7/18
あづましずく	7/8	7/1	7/4	7/11	7/12	7/17	7/14

注) 平年値は、2008~2024 年の平均値

4 栽培上の留意点

本年は 6 月 14 日頃梅雨入りしたと見られています。降水量は、地域によってバラつきがあります

が、平年よりも少ない地域が多い状況です。各園地の状態に応じて適切な対策を実施しましょう。

(1) 共通

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り、マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) もも

ア 中生品種の収穫前管理

DVRモデルによる「あかつき」の収穫期予測では、収穫開始日が平年より4日程度早い見込みです。収穫期は地域によって差があることから、果樹研究所との平年の生育差を考慮するとともに、園地ごとの成熟状況を確認して収穫期を判断しましょう。

また、核障害の発生が多い場合には、核や胚に障害を持つ果実が早熟する傾向にあることに注意しましょう。

現在、果樹研究所内の「あかつき」は着色期に入っています。これ以降の品種についても、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シート設置など収穫直前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に実施しましょう。

(3) なし

ア 新梢管理

「幸水」では、腋花芽着生向上を目的として新梢誘引を実施する場合、新梢生長が停止する前に予備枝誘引作業を完了する必要があります。まだ終わっていない場合は急いで作業を進めるようにしましょう。

また、新梢誘引は樹冠内の光条件を改善するとともに、薬剤の散布むらを減らし、翌春における長果枝棚付け作業の効率化なども期待できます。「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。

イ 修正摘果

裂果が観察される時期の摘果は他の果実の裂果発生を助長するおそれがあるので控えます。裂果が収束（満開後90日頃）したら修正摘果を実施しましょう。

(4) りんご

ア 修正摘果

果実肥大や果形、傷害の有無等の区別が付きやすい時期なので、小玉果、変形果、病虫害被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施し、適正着果に努めましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実肥大に伴い枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ、傷果防止のため、支柱立てや枝吊りを実施しましょう。なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意しましょう。

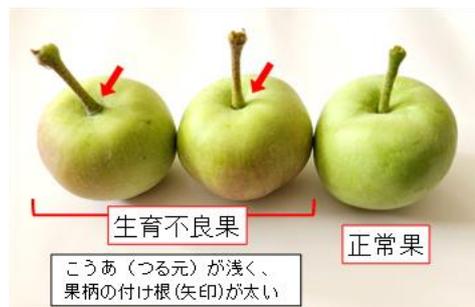


図2 りんごの生育不良果

(5) ぶどう

ア 着房管理

ぶどうの着色始めは、果房中のいくつかの果粒が飛び玉状に濃く着色するのが望ましい状態です。全体的にぼんやりと色がまわってくる場合は、着果過多が影響しているため、早急に着房数の見直しを行いましょう。また、着色期の日照不足も着色不良を招くため、込み合っている部分の新梢の整理を併せて行いましょう。

イ 新梢管理

新梢が遅伸びすると、光合成により生産された養分は新梢の伸長に消費され、果実への転流が少なくなります。果実品質の低下や新梢の登熟不良を防ぐため、遅伸びしている新梢の摘心や余分な新梢の整理と誘引の見直し、副梢の整理と摘心等を実施し、棚面の明るさを確保しましょう。

具体的には、7月下旬～8月上旬頃に、伸長が停止していない新梢を摘心しましょう。

摘心は、新梢先端の生長点を軽く摘む程度に行くと副梢の発生が少ない傾向にあります。伸長が停止しない副梢は2～3葉残して摘心しましょう。伸長が停止しそうな弱い副梢は、棚面が混み合わなければ、そのまま放置してもかまいません。摘心後も棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に間引きを行います。本数は必要最小限にとどめるように注意しましょう。

5 病害虫防除上の留意点

現在の果樹の生育は、平年より概ね1週間程度早まっています。本年は6月14日頃梅雨入りしたと見られていますが、降水量は地域によってバラつきがあり、平年よりも少ない地域が多い状況です。

今後の天候しだいでは、感染が増加するおそれがありますので、気象情報に留意し、生育に応じた計画的な防除を実施しましょう。また、耕種的防除（病斑の除去や新梢管理）を徹底し、発生密度の低減を図りましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病

病害虫防除所による6月中下旬の発生調査では、本病の発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（令和7年6月30日付け病害虫防除情報）（図3）。梅雨期の降雨によって、今後発生が急拡大するおそれがあります。

本病が多発すると罹病落葉によって病原の越冬量が増加し、翌年の多発生を招く原因となることから、10日間隔での薬剤防除の降雨前実施を徹底し、感染拡大を防止しましょう。

すでに発生が見られる園では、表7から薬剤を選択し、使用基準にしたがって適切に使用しましょう。なお、薬剤系統3、7、11の薬剤は、耐性菌が出現しやすいため、連用を避けるとともに、年間2回以内の使用にとどめてください。

また、トップジンM水和剤はすでに耐性菌の発生が確認されている地域があるため、使用に当たっては注意しましょう（平成30年農業総合センター参考となる成果）。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。

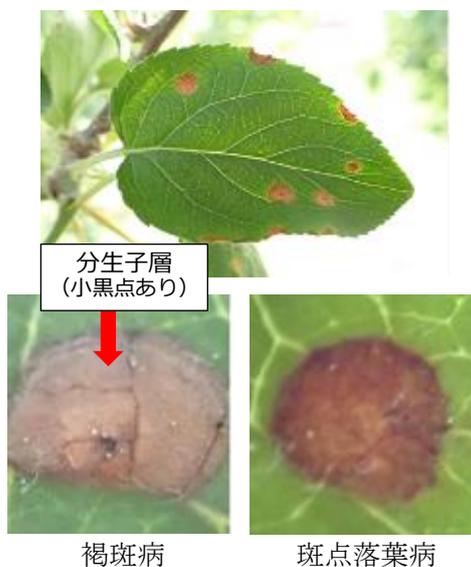


図3 リンゴ褐斑病発病葉（上）と見分け方（下）
（写真提供：病害虫防除所）

表7 リンゴ褐斑病二次感染期（7月以降）の防除薬剤

薬剤名	希釈倍数 ・使用量	薬剤系統	使用時期	本剤の 使用回数
オンリーワンフロアブル	2,000倍	3*	収穫7日前まで	3回以内
ストロビードライフロアブル	<u>3,000倍</u>	11*	収穫前日まで	3回以内
トップジンM水和剤	<u>1,500倍</u>	1	収穫前日まで	6回以内
ナリアWDG	2,000倍	11*・7*	収穫前日まで	3回以内
パレード15フロアブル	<u>2,000倍</u>	7*	収穫前日まで	2回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤	<u>3,000倍</u>	11*	収穫前日まで	3回以内
フrintフロアブル25	<u>3,000倍</u>	11*	収穫前日まで	4回以内
ユニックス顆粒水和剤47	2,000倍	9	収穫14日前まで	4回以内

注)登録内容は令和7年7月18日現在。希釈倍数・使用量の下線は試験研究成果に基づくもの。
3*、7*、11*は、耐性菌の出現を防ぐため、連用を避けるとともに年間2回以内の使用を推奨。

イ リンゴ輪紋病、炭疽病

輪紋病の防除には、7月下旬～8月上旬ごろにベフラン液剤25を1,500倍またはベルコート水和剤を1,000倍で使用しましょう。なお、炭疽病の発生が多い園地では、これらの薬剤に替えてオーソサイド水和剤80を800倍で使用しましょう。なお、炭疽病の発生を抑制するには、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物の除去が効果的です。

ウ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

梅雨期は灰星病の重点防除時期であるため、天候の推移に注意しながら降雨前に薬剤防除を行いましょう。花腐れや葉腐れが見られた園地では、防除効果の高い薬剤を必ず使用しましょう。なお、薬剤防除は使用時期（収穫前日数）に十分注意して実施しましょう。晩生種では、ホモプシス腐敗病の防除対策も重要となることから、7月下旬にダコレート水和剤を1,000倍で使用しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、第3世代成虫の誘殺盛期は、7月4半旬ごろと予測され、第4世代幼虫の防除適期は7月4半旬ごろと推定されます（表8）。第4世代成虫の誘殺盛期は、8月1半旬ごろと予測され、第5世代幼虫の防除適期は8月2半旬と推定されます。本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、第2世代成虫の誘殺盛期は、7月3半旬ごろと予測され、第3世代幼虫の防除適期は、7月4半旬と推定されます（表8）。第3世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、8月1半旬ごろと予測され、第4世代幼虫の防除適期は、8月2半旬ごろと推定されます。

本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。

ウ ナシマルカイガラムシ

今後の気温が2℃高く推移した場合、第2世代のふ化開始は7月4半旬ごろと予測され、ふ化盛期は7月6半旬ごろと推定されます（表8）。

カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除しましょう。

エ ハダニ類

病害虫防除所の6月中下旬巡回調査におけるハダニ類の発生は場割合は、リンゴ、モモでは平

年よりやや高く、ナシではやや高い～平年並みでした(7月10日付け令和7年度病害虫防除情報)。高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行きましょう。

オ カメムシ類

本年は、病害虫防除所によるフェロモントラップ調査において、平年より多く誘殺されている地点があります(7月10日付け令和7年度病害虫発生予察情報注意報：

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/699625.pdf>)。

飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行きましょう。

表8 果樹研究所における防除時期の推定(令和6年7月16日現在)

今後の 気温予測	モモハモグリガ			
	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期
2℃高い	7月16日	7月19日	8月3日	8月7日
平年並	7月16日	7月21日	8月5日	8月8日
2℃低い	7月16日	7月21日	8月6日	8月10日

起算日：モモハモグリガ 第2世代誘殺盛期 6月25日(予測値) (演算方法は三角法)

今後の 気温予測	ナシヒメシクイ				ナシマルカイガラムシ	
	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第2世代 ふ化開始	第2世代 ふ化盛期
2℃高い	7月11日	7月18日	8月4日	8月10日	7月19日	7月28日
平年並	7月11日	7月20日	8月8日	8月14日	7月21日	7月31日
2℃低い	7月11日	7月20日	8月10日	8月18日	7月21日	8月1日

起算日：ナシヒメシクイ第1世代誘殺盛期 6月17日(予測値)

ナシマルカイガラムシ 3月1日

(演算方法は三角法)

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払きましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

■農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進

実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>